

平成29年4月19日

上ノ国町議会議長

石澤一明様

氏名 三浦安則



平成28年度政務活動費に係る収支報告について

上ノ国町議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、別紙のとおり平成28年度政務活動費収支報告書を提出します。

政務活動報告書

1 政務活動名

- (1) カキ養殖事業の調査研究
- (2) ギンザケ養殖事業の調査研究
- (3) 歴史文化遺産などの保全及び展示公開の調査研究

2 政務活動内容

(1) カキ養殖事業の概要について

平成28年10月20日午前9時から、新潟県佐渡市の加茂湖漁業協同組合で、伊藤隆一組合長より加茂湖でのカキの養殖事業について説明を受け研修視察した。

(2) ギンザケ養殖事業の概要について

平成28年10月20日午前11時から、新潟県佐渡市の弓ヶ浜水産佐渡事業所で山本勝所長より前浜沖でのギンザケの養殖事業について説明を受け、研修した。

(3) 史跡「佐渡金山」や「トキの森公園」での保全や展示公開について

平成28年10月20日午後2時から視察研修した。

3 政務活動成果

(1) カキ養殖事業

加茂湖のカキの養殖は明治35年から始まり、貧酸素水塊（酸素量が極めて不足している孤立した水域）と戦いながら今日に至っています。加茂湖は周囲17kmで、面積486ha、最大水深8.7mの淡水湖ですが、現在はポンプで毎秒2トンの海水を外海から導入しています。カキはいかだ方式により1年物で収穫しており、種子は三重県や宮城県から購入しています。現在は組合員60名で、その半数が農業との兼業であります。水田の刈り採りが終了した時点で水田に水を張りドジョウや小魚を成長させ、「トキ」の自然餌料飼育の補助金を得て農業経営を持続させていま



注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～○○調査研究、○○研修、○○広報・広聴、○○会議など)

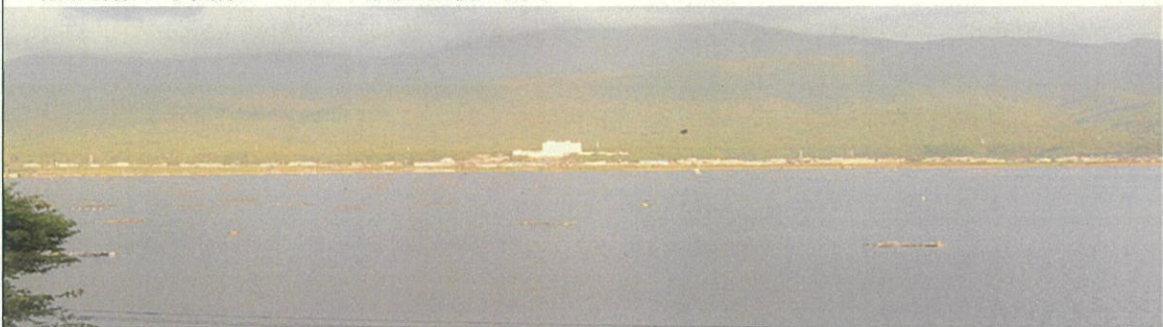
2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

す。
カキの漁獲量は119トン（平成27年）で、ほとんどが県内で消費されているとのことです。養殖いかだは、最盛期で4,000台くらいあったが、現在は4百数十台であり、現在も農地からの排水の流入による富栄養化や酸素不足をなくすために、自然にあわせたヨシ原をつくっています。なお、佐渡島の反対側の真野湾では、はえ縄方式でカキの養殖を行っており、真野湾の漁師は専業としているそうです。

○加茂湖におけるカキ養殖の歴史

- ・明治35年 湖口の掘削より同津湾とつながる
- ・明治43年 カキ移植（失敗）
- ・大正10年 地まき式養殖を県水産試験場が指導
- ・昭和6年 この頃から天然カキが湖内に大発生
- ・昭和26年 垂下式養殖に成功（ヘドロの影響により時まき式養殖が困難）
- ・昭和26～27年 **湖奥のカキが大量死**（底層水の貧酸素が原因）
- ・昭和38年 筏台数3,000台、総収益1億円を記録（現在約850台）
- ・昭和39年 この頃から水質悪化による**カキ死が目立つ**
- ・昭和46～48年 底層水の貧酸素状態を改善するため、海水導入及び陸水導入工事を行うー1)
- ・昭和50年 カキ殻処理場を設置ー2)
- ・昭和55～58年 海水導入工事を行うー3)
- ・平成5～16年 湖奥に堆積したヘドロを除去するため、浚渫工事を行うー4)
- ・平成12年 海水攪拌装置4基設置するー5)
- ・平成19年 **湖奥のカキが大量死**（シロボヤの大発生を伴う）
- ・平成21年 ヘドロカブサによる**カキ大量死**

加茂湖カキ養殖いかだの設置状況（下）



(2) ギンザケ養殖事業

弓ヶ浜水産株式会社（日本水産(株)の子会社）は、宮城県女川町でギンザケの養殖、加工事業を行っていましたが、2011年の東日本大震災で被災したのを機に、本社機能を鳥取県に移し、2年間の試験操業のあと2013年12月に佐渡事業所を設立しました。

養殖ギンザケ「活メ（かつじめ）佐渡サーモン」の生産サイクルは下図のとおりです。漁獲量は生簀（いけす）10基分1,000トンを計画しています。佐渡市は鳥取県堺港市より海水温の上昇が遅く、出荷時期が約1か月遅くなるため、佐渡サーモンの供給期間が長くなったとのこと。

サケの卵は北海道やカナダから購入しており、1月に孵化し、6月から淡水飼育した後、年末から佐渡市の沖にある生簀で海面飼育しています。

注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

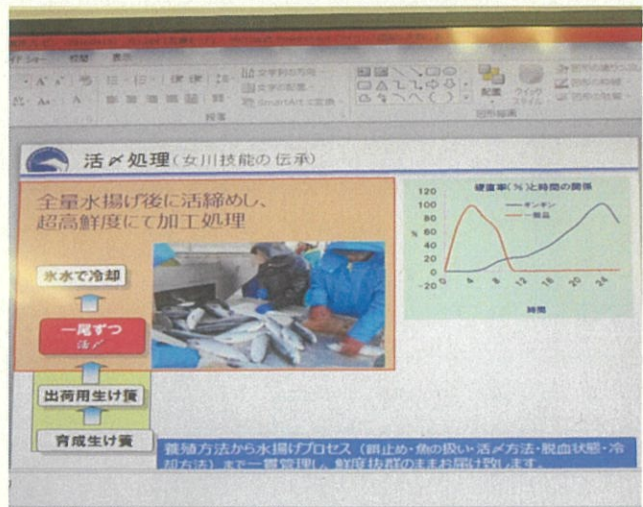
(例～○○調査研究、○○研修、○○広報・広聴、○○会議など)

2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

水揚げは水温が20度位になる5月以降になり、「活〆佐渡サーモン」のブランドで出荷しているそうです。

佐渡島の影になり、波が少しは穏やかとはいえ、日本海で大量に海面飼育ができ、へい死率が少なく、生育ムがないのは、給餌システムによるとのことです。

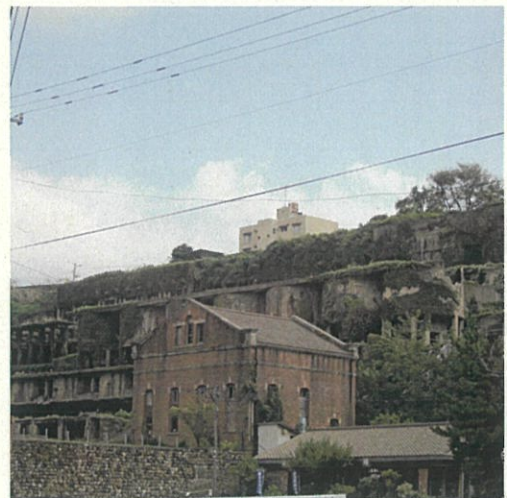
この給餌システムは、①魚の食欲に合わせて給餌、②水温や接餌行動を水中カメラでモニタリングし、漁場と事務所間をデータ通信、③給餌技能を見える化できるものです。



(3) 史跡「佐渡金山」や「トキの森公園」での保全や展示公開について

佐渡市には自然、歴史文化遺産などがたくさんあり、佐渡金山は1601年から1989年まで金銀を採掘しており、388年間に産出した金は78トン、銀は2,330トンで、まさに日本最大の金銀山でした。

佐渡市では、世界文化遺産の指定にむけて、市民運動を展開しており、街中にはそれに向けてののぼりが多く見られ、観光客などにも働きかけをする光景が見られました。佐渡金山はきれいに保存され、歴史や文化の展示もわかりやすく、環境整備もされております。



また、国際保護鳥トキを展示している「トキの森公園」も環境整備が整っており、近くでトキを見られる工夫やトキについての様々なことがスクリーンやパネルで解りやすく展示されています。特に、トキの保護のため車で近づかないことや、農家が収穫期が終わった後、水田を代かきして餌になるドジョウの増殖を図るなど、住民が一丸となって保護しているのが感じられます。

注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～〇〇調査研究、〇〇研修、〇〇広報・広聴、〇〇会議など)

2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

研修の成果

加茂湖でのカキの養殖は、海に接した湖でどこでもできそうに思われるが、貧酸素との強い戦いが海水を補充するという方法により、カキの養殖を可能にしたと思います。真野湾でのカキの養殖を考えれば、港湾内や日本海の静穏域での養殖は可能であり、特に、組合員の半数が農業者であることは、生み育てる考え方が進んでいるものと思われます。また、弓ヶ浜水産の銀ザケの養殖事業は、生簀の設置場所が多少穏やかな海域ですが、本町の海域でも検討する余地があると思われます。さらに、歴史文化遺産の保全や展示公開施設は整備され、案内やデモンストレーションもわかりやすくされ、さすが世界遺産の候補地だと理解し、本町の歴史文化遺産の整備の必要性を痛感したところです。

注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～〇〇調査研究、〇〇研修、〇〇広報・広聴、〇〇会議など)

2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。